

大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校
大南学園第七小学校
学園だより NO. 8
令和2年12月1日

学び合いのために大切なこと

先日、6年生が日光移動教室に行ってきました。秋深まる奥日光ということで、大変気温の低い中ではありましたが、子供たちは元気いっぱいに活動してきました。2泊一緒に寝食を共にすることを通して、たくさんのことを学びあってきました。

さて、今回は「主体的・対話的で深い学び」の中でも「対話的」ということと関連して述べさせていただきます。「対話的な学び」には、人と人との対話だけでなく、書物との対話、芸術作品との対話、自分自身との対話という意味も含まれています。ここでは、「対話的な学び」の一つである「学び合い」のために大切なことについて考えていきます。

先日、ある学級の国語の授業を参観し、素敵な子供たちの姿に出会いました。教科書の文章を根拠に、理由を添えながら自分の意見を発表する。それも、先生に向かってではなく、友達に向かって伝えようとする。周りの友達は、発表している友達の方を自然と見て、思いや考えを受け止めようとしている。そんな学び合いの姿を見て嬉しくなりました。

児童同士の「学び合い」を成立させるために大切なことは何でしょうか。それは、「聴く力」と「伝える力」の両方であると言えます。

まず、「聴く力」です。この力の育成は、本校の教育活動の柱の一つです。聴く力といっても発達段階によって違いはありますが、基本となるのが「聴こうという意識」だと考えます。

学校生活の中で、全校朝会、授業、避難訓練など、「聴く」場面はたくさんあります。その時に、自ら聴こうとするのか、何気なく聞き流してしまっているのか、「聴こうとする意識」には大きな個人差が見られます。

副校長 中山 和彦

授業中、話し手の目を見て、うなずきながら、必要なことはメモをしながら、そして質問を考えながら話を聴いている児童は、必ず学力の着実な伸びが認められます。逆に、他の方を向きながら、手いらずらしながら、他のことを考えながらでは、努力の割に学力の向上がおぼつかないのが現状です。

学校でも、機会あるごとに「話を聴く」ことの大切さを伝えるとともに、教師自身が「子供が聴きたいと思える話」をするように努力をしています。是非御家庭でも、「話を聴く」ことの大切さや、どうすれば話をしっかりと聴くことができるのかについてお子さんとお話しいただければと思います。

もう一つの力が「伝える力」です。そして、「伝える力」の中心となるのが「相手意識」だと考えます。「先生に指名されたから自分の考えを発表する」というだけでなく、誰に何を伝えようとするのかをしっかりと意識し、伝える工夫をして発表することが大切です。

総合的な学習の時間で、高学年が調べたことを低学年に伝える場面があります。相手意識をもっていない児童は、自分たちが調べてきたことをそのまままとめ、発表し、満足して終わってしまいます。一方、相手意識をもっている児童は、相手の年齢や状況に合わせて、分かりやすい言葉を使ったり、掲示物の漢字を平仮名にしたり、イラストを付け加えたりして発表します。当然、前者と後者では、伝わる内容が大きく違ってきます。

学校では、意見を伝える場面で、「だれに」「何を」伝えるのか、しっかりと伝えるためには「どんな工夫をして」伝えたらよいのかを大切に指導していきます。御家庭でも、お子さんが人に何か伝えようとするときに、どんなことを心がけているのか、どんな工夫をしているのか聞いてみてください。